

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500477
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7番27号
自己評価作成日	平成 28年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 9月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが自分のペースで生活が送れるように、職員は言葉掛けや援助を行っている。入居者様の残存能力を把握し、食事・入浴・排泄が維持出来る様、ラジオ体操や歩行運動・散歩等を行っている。又、気候が良い月はドライブに出かけるなど、ホーム外での活動を積極的に行っている。日中、暖かい時には、敷地内の散歩を随時行い、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。音楽療法や誕生日会等、入居者や職員全員で楽しめる機会を作っている。近隣施設の協力もあり、夏祭りや運動会、移動販売に参加する事で地域の方と触れ合う場を持ち、意欲の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の玄関は昼間は開放され、季節の花が飾られ家庭的なほっとするような雰囲気づくりがされている。居間も明るく、利用者は穏やかな表情で過ごしている。管理者と職員が利用者の情報を共有して日々ケアに努めていることがうかがえる。近くの介護施設と交流があり、移動販売に買い物に行くのが利用者の楽しみになっている。協力医療機関と24時間医療連携が取れており、高知から音楽療法の先生が来たり、言語聴覚士の訪問があり、利用者の嚥下状態の確認や口腔体操の助言や指導を受け、ケアに活かしている。外出の機会を多くし、ドライブ等頻繁に出かけるようこころがけている。食事は管理栄養士がカロリーを計算し、栄養バランスも考慮の上献立を立てている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) そよ風

記入者(管理者)
氏名 青木 裕介

評価完了日 平成 28年 8月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者様が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 「個性を大切にして、笑顔、笑い声のある生活」を理念に、利用者一人ひとりの残された能力を把握し、利用者ができることは見守りながら日々の生活を支援している。まだ開設して9か月なので、管理者は理念について職員で話し合いながら共有し、さらに実践に繋げたいと考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し、地域の活動や行事（地区の運動会）に積極的に参加している。又近隣施設との交流を大切にし、移動販売や、夏祭り等の行事に参加している。</p> <p>(外部評価) 運営者が変わり、職員もほとんど変わったが、以前からの付き合いで近くの介護施設に来る移動販売や夏祭りに参加する等、交流がそのまま続いている。自治会に加入しているので、地域の情報を得ることができているが、現時点では事業所内のことが優先され、地域行事等の参加はこれからとなっている。</p>	運営推進会議に民生委員や公民館の館長等が参加しており、地域の情報も得られているので、今後は積極的に地域の行事等に参加することを望みたい。できればまた以前のように、小学校の運動会等に参加して交流する機会を持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 開所したばかりなので、認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ていない状態である。今後は、運営推進会議の場などを十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 平成28年度より、小規模特別養護老人ホームつばきと合同で 運営推進会議を行っている。運営推進会議で出た意見や検討項 目について職員会で報告し検討している。いただいた意見に対 しては実行できるように取組み次の会で経過を報告してい る。	
			(外部評価) 2か月に1回、利用者や家族、地域包括支援センターの職員、 民生委員、公民館長が参加して開催している。会議では利用者 の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告の後、活発な意見 交換が行われている。民生委員や公民館長から地域の情報提供 があり、利用者の昔の写真を持ってきてもらったこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 3か月に1回、事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情 報を開示したり情報をいただいたりしている。困ったことなど も相談をしている。また、年間数回のグループホーム連絡協議 会にも参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加し て事業所の実情を把握しており、助言をもらっている。市担当 課には事業所から出向いて相談に行き指導助言を得ることが多 い。また、地域包括支援センターには支援困難な利用者につ いて相談し、連携して支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体で取組みを行っている。また、今までに身体拘束を 行わなければならなかった事例は見られていない。	
			(外部評価) 職員は、法人内外の研修に参加して身体拘束をしないケアにつ いて理解し、その実践に努めている。転倒の危険がある利用者 の安全を守るためベッド柵を使用した際は、家族と相談の上同 意を得て必要最小限にとどめている。玄関は昼間は開放され、 出入りの際にはチャイムが鳴るようになっている。頻回に一人 で外出する利用者に対し、絶えず見守り納得するまで付き添い 歩いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で取り組みを行い学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会などを通じて学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者の申し込み時や契約時に契約書に沿った説明を行い、理解・納得していただいた上で入居していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や表情・態度からその思いや考えを察するように努め、入居者主体の運営を心かけている。また、家族会を定期的に行い、意見交換を行い、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに生かしている。市町村や家族、地域の方にも運営推進会議にも参加していただき入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。	
			(外部評価) 利用者については日々の生活の中で、家族には面会時に意見や要望を聞くようこころがけている。また、運営推進会議や家族会でも聞く機会を設けている。各行事や家族会に多くの家族の方が参加しており、家族との良い関係づくりができています。家族会案内時等に家族に手紙を書き、返信封筒を同封し要望等書いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で提案・意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。 (外部評価) 以前からの職員も数名いるが、管理者、職員とも同時スタートであり、お互い意見を言いやすい関係を築いている。職員は月1回の職員会で意見や提案を出すことができ、利用者の日々のケアに活かしている。また、法人内外の研修に積極的に参加しその内容を職員全員が共有するなど、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。今年度は、研修計画を立て、法人内外で行われる研修へ参加する機会を設け実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会する等、職員が勉強会に参加できるようにしていく。また、他のグループホームの職員と交流していけるよう機会を確保していく。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、家族と一緒に事業所を見学していただき、不安を少なくするように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活暦や申し 込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握す るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり 他のホームや施設の紹介をするなどの対応をしている。受診が 必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。昔の風 習や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折 にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診時や面会時等に、日頃の本人の健康状態や日々の生活 状況について報告し、共有することで、本人を支えていくため の協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご本人の希望により訪問していただけるようお願いしてい る。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握で きるよう努めている。また、入居後も面会時などに家人よ り、情報収集に努めている。 (外部評価) 家族以外に知人や剣道の教え子等の訪問者があり、利用者は楽 しみにしている。ドライブ中に自宅が近くにあることを知り、 利用者宅の前を通ることもある。近くの介護施設の移動販売に 買い物に行くと、近所の人が声をかけてくれることもあり楽し みにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 退居後も相談等、不安なことや相談がある時はいつでも来ていただけるよう話している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察し本人の思いをできるだけ汲み取るように心がけている。 (外部評価) 利用者との日常会話の中で、表情や行動をよく観察することで把握するよう努めている。職員は、利用者に常に話しかけるよう心がけており、些細なことでも気を付けている。新たに得られた情報は、介護記録に記載し申し送り時やミーティング等で話し合っており、職員同士で共有しケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また、本人・家族の意見も取り入れている。介護記録も、本人が話した言葉を記録するようにしている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認し介護計画の原案を作成し、その計画案をユニット会で職員が話し合い完成させ共有している。受け持ち制を取っていないため、職員は利用者全員を把握し介護計画に沿った業務を遂行し分かりやすいように介護記録を作成している。介護計画は3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度評価して見直し、現状にあった計画に変更するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話していることを記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映ができていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医へ受診をしたり、事業所の協力医が月二回往診し 連携を図っている。また、通院については家族同行をお願いし ているが、不可能な時や緊急な時は職員が付き添っている。 (外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援してい る。協力医をかかりつけ医としている利用者は、月2回訪問診 療を受けることができ、24時間医療連携が取れるようになって いる。また、歯科医師の往診による治療や、言語聴覚士の訪 問などもあり、嚥下状態の確認や口腔体操の方法について助言 や指導をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員に看護職があり、体調不良時の対応や日々の健康管理を 行っている。また、主治医との連絡体制ができており随時診察 して頂けるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院中は職員 が様子を見に行き、回復状況の把握に努め家族とも連絡を取り 合い早期退院に向け取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居者が元気で意思表示できるうちに可能であれば重度化した 場合の意向を伺う等、ご家族とも話し合いをしている。どのよ うな場合はホームでの対応が困難か等も合わせて話をしてい る。 (外部評価) 事業所独自で、重度化した場合における対応に関する指針を作 成している。看取りに関する項目もあり、終末期における介護 についても記載され、利用者や家族に説明を行い、重度化や終 末期についての希望を確認している。看取り研修の実績もある が、開設して日が浅いため、まだ体制づくりができていないの が現状である。	重度化や終末期の支援は、医師や看護師、職員、家族 等の協力が不可欠である。24時間医療体制や職員教 育も含めた体制づくりについての具体的な取組みに期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域（消防団）の方との話しあいを行い、火災や水害等の災害時の避難についての協力体制が築けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 災害時マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練を行っているほか、事業所独自に毎月計画を立て防災訓練を行っている。備蓄品専用の倉庫があり必要物品や水、食料を準備している。地域の避難場所の確認もできているが、これから地域との協力体制を築くため地区消防団と話し合いを行う予定となっている。	災害はいつ起こるか分からないため、運営推進会議で協議するなどし、なるべく早期に地域住民との協力体制を構築していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会が中心となってしまっているが、認知症高齢者に対しての言葉掛けや態度などを自分自身の振り返りの時間を設けるようにしている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接している。自分がされて恥ずかしいと思うことは行わないことを徹底し、声かけにも気を付けて和やかな雰囲気大切にしている。トイレ誘導はさりげなく行うようにし、居室の中で排泄介助を行う場合は必ず戸を閉めるようプライバシーに配慮している。入浴等同性の介助者を望む場合にはなるべく希望に沿っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切に職員が合わせるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と共に畑で作った作物と一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が、カロリー計算をし栄養バランスに配慮の上、献立を立てている。すべて事業所内で調理するのではなく、法人内事業所で調理したものをチルド製品にするなどの工夫をしている。野菜の皮むきや食器洗いなど利用者にとできることを手伝ってもらっており、誕生日には手づくりのケーキを作りみんなで楽しくお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。特に夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。今年から言語聴覚士の訪問もあり、口腔ケアや嚥下状態、姿勢について等相談し、職員全体で統一したケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排泄を促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によってパットの大きさを変えたりしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状態に合わせて支援しており、利用者のほとんどが誘導によりトイレで排泄することができている。不安が強く常時ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、こだわりを理解して随時対応している。排泄チェックはまめに行い状態を把握したり、医師の指示で緩下剤を服用するなど、快適に排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操、散歩、食事など気をつけ、出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。特に朝食後の声掛け誘導を心がけている。緩下剤も看護師に相談し、その使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。	
			(外部評価) 午後の入浴が多く週3回は入浴できるよう支援しているが、毎日入浴を希望する場合も対応している。入浴が苦手な利用者に対しては、職員を代えたり声をかけるタイミングをずらすなど、工夫し対応している。また同性介助等の利用者の希望などにも沿えるようにしているほか、どちらのユニットでも入浴することができるため、利用者の状態に応じ入浴場所を変更するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。一人ひとりの状態の合わせ見守りの下ホール畳スペースでの休息も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の後片付けや畑仕事、洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きなお入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩やドライブ等に出かけるようになっている。年に数回は家族と一緒に弁当を食べたレクレーションに参加して頂いたりしている。 (外部評価) 近所に公園があり、利用者は子どもたちが遊んでいる光景を見るのを楽しみにしており、天気の良い日は、近所に散歩に出かけることが多い。また近くの介護施設の移動販売や夏祭りに参加したり、花見、観光施設や公園等にドライブにも出かけるなど、家族と一緒に外出を楽しむ利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者がこづかいを持つことはなく買い物をしても職員が代行して支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節ごとの飾りを一緒に作成し季節感を感じて頂いたり、毎食行事時のおやつや食事を工夫し五感を刺激できるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関は開放され、ユニット間は自由に出入りができるようになっている。壁には季節の物や、行事の写真が飾られている。玄関や食卓には季節の花が飾られており、家庭的な雰囲気を感じられる。居間は明るく畳の場所も確保されている。また畑もあり野菜づくりができるなど、収穫は利用者の楽しみとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。ソファで新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持てている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族に協力いただき少しづつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。居室の壁にはお写真を貼るなど工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の収納場所が広いとため、利用者は思い出の品などをたくさん持ち込むことができ重宝しており、家で使用していたテレビや家具等を持ち込むなど、個性的な部屋となっている。壁にはカレンダーや写真、利用者の作品等飾られている。ベッドで寝るのを好まない利用者は、畳の部屋で直接布団を敷くことができるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500477
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7番27号
自己評価作成日	平成 28年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 9月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが自分のペースで生活が送れるように、職員は言葉掛けや援助を行っている。入居者様の残存能力を把握し、食事・入浴・排泄が維持出来る様、ラジオ体操や歩行運動・散歩等を行っている。又、気候が良い月はドライブに出かけるなど、ホーム外での活動を積極的にやっている。日中、暖かい時には、敷地内の散歩を随時行い、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。音楽療法や誕生日会等、入居者や職員全員で楽しめる機会を作っている。近隣施設の協力もあり、夏祭りや運動会、移動販売に参加する事で地域の方と触れ合う場を持ち、意欲の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の玄関は昼間は開放され、季節の花が飾られ家庭的なほっとするような雰囲気づくりがされている。居間も明るく、利用者は穏やかな表情で過ごしている。管理者と職員が利用者の情報を共有して日々ケアに努めていることがうかがえる。近く介護施設と交流があり、移動販売に買い物に行くのが利用者の楽しみになっている。協力医療機関と24時間医療連携が取れており、高知から音楽療法の先生が来たり、言語聴覚士の訪問があり、利用者の嚥下状態の確認や口腔体操の助言や指導を受け、ケアに活かしている。外出の機会を多くし、ドライブ等頻繁に出かけるようこころがけている。食事は管理栄養士がカロリーを計算し、栄養バランスも考慮の上献立を立てている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) さざ波

記入者(管理者)

氏名 青木 裕介

評価完了日 平成 28年 8月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 「個性を大切にして、笑顔、笑い声のある生活」を理念に、利用者一人ひとりの残された能力を把握し、利用者ができることは見守りながら日々の生活を支援している。まだ開設して9か月なので、管理者は理念について職員で話し合いながら共有し、さらに実践に繋がりたいと考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会し、地域の活動や行事（地区の運動会）に積極的に参加している。又近隣施設との交流を大切にし、移動販売や、夏祭り等の行事に参加している。</p> <p>(外部評価) 運営者が変わり、職員もほとんど変わったが、以前からの付き合いで近くの介護施設に来る移動販売や夏祭りに参加する等、交流がそのまま続いている。自治会に加入しているので、地域の情報を得ることができているが、現時点では事業所内のことが優先され、地域行事等の参加はこれからとなっている。</p>	運営推進会議に民生委員や公民館の館長等が参加しており、地域の情報も得られているので、今後は積極的に地域の行事等に参加することを望みたい。できればまた以前のように、小学校の運動会等に参加して交流する機会を持つことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 開所したばかりなので、認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ない状態である。今後は、運営推進会議の場などを十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 平成28年度より、小規模特別養護老人ホームつばきと合同で運営推進会議を行っている。運営推進会議で出た意見や検討項目について職員会で報告し検討している。いただいた意見に対しては実行できるように取組み次の会で経過を報告している。</p> <p>(外部評価) 2か月に1回、利用者や家族、地域包括支援センターの職員、民生委員、公民館長が参加して開催している。会議では利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告の後、活発な意見交換が行われている。民生委員や公民館長から地域の情報提供があり、利用者の昔の写真を持ってきてもらったこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 3か月に1回、事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情報を開示したり情報をいただいたりしている。困ったことなども相談をしている。また、年間数回のグループホーム連絡協議会にも参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加して事業所の実情を把握しており、助言をもらっている。市担当課には事業所から出向いて相談に行き指導助言を得ることが多い。また、地域包括支援センターには支援困難な利用者について相談し、連携して支援している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人全体で取り組みを行っている。また、今までに身体拘束を行わなければならなかった事例は見られていない。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人内外の研修に参加して身体拘束をしないケアについて理解し、その実践に努めている。転倒の危険がある利用者の安全を守るためベッド柵を使用した際は、家族と相談の上同意を得て必要最小限にとどめている。玄関は昼間は開放され、出入りの際にはチャイムが鳴るようになっている。頻回に一人で外出する利用者に対し、絶えず見守り納得するまで付き添い歩いている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体で取り組みを行い学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会などを通じて学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者の申し込み時や契約時に契約書に沿った説明を行い、理解・納得していただいた上で入居していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や表情・態度からその思いや考えを察するように努め、入居者主体の運営を心かけている。また、家族会を定期的開催し、意見交換を行い、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに生かしている。市町村や家族、地域の方にも運営推進会議にも参加していただき入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。 (外部評価) 利用者については日々の生活の中で、家族には面会時に意見や要望を聞くようこころがけている。また、運営推進会議や家族会でも聞く機会を設けている。各行事や家族会に多くの家族の方が参加しており、家族との良い関係づくりができています。家族会案内時等に家族に手紙を書き、返信封筒を同封し要望等書いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で提案・意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。 (外部評価) 以前からの職員も数名いるが、管理者、職員とも同時スタートであり、お互い意見を言いやすい関係を築いている。職員は月1回の職員会で意見や提案を出すことができ、利用者の日々のケアに活かしている。また、法人内外の研修に積極的に参加しその内容を職員全員が共有するなど、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。今年度は、研修計画を立て、法人内外で行われる研修へ参加する機会を設け実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会する等、職員が勉強会に参加できるようにしていく。また、他のグループホームの職員と交流していけるよう機会を確保していく。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、家族と一緒に事業所を見学していただき、不安を少なくするように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活暦や申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり他のホームや施設の紹介をするなどの対応をしている。受診が必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。昔の風習や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診時や面会時等に、日頃の本人の健康状態や日々の生活状況について報告し、共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の希望により訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。また、入居後も面会時などに家人より、情報収集に努めている。 (外部評価) 家族以外に知人や剣道の教え子等の訪問者があり、利用者は楽しみにしている。ドライブ中に自宅が近くにあることを知り、利用者宅の前を通ることもある。近くの介護施設の移動販売に買い物に行くと、近所の人が声をかけてくれることもあり楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も相談等、不安なことや相談がある時はいつでも来ていただけるよう話している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察し本人の思いをできるだけ汲み取るように心がけている。 (外部評価) 利用者との日常会話の中で、表情や行動をよく観察することで把握するよう努めている。職員は、利用者に常に話しかけるよう心がけており、些細なことでも気を付けている。新たに得られた情報は、介護記録に記載し申し送り時やミーティング等で話し合っており、職員同士で共有しケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また、本人・家族の意見も取り入れている。介護記録も、本人が話した言葉を記録するようにしている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認し介護計画の原案を作成し、その計画案をユニット会で職員が話し合い完成させ共有している。受け持ち制を取っていないため、職員は利用者全員を把握し介護計画に沿って業務を遂行し分かりやすいように介護記録を作成している。介護計画は3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度評価して見直し、現状にあった計画に変更するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話していることを記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映ができていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医へ受診をしたり、事業所の協力医が月二回往診し連携 を図っている。また、通院については家族同行をお願いしている が、不可能な時や緊急な時は職員が付き添っている。 (外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。協 力医をかかりつけ医としている利用者は、月2回訪問診療を受ける ことができ、24時間医療連携が取れるようになっている。また、 歯科医師の往診による治療や、言語聴覚士の訪問などもあり、嚥下 状態の確認や口腔体操の方法について助言や指導をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員に看護職がおり、体調不良時の対応や日々の健康管理を行って いる。また、主治医との連絡体制ができており随時診察して頂ける ようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院中は職員が様 子を見に行き、回復状況の把握に努め家族とも連絡を取り合い早期 退院に向け取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居者が元気で意思表示できるうちに可能であれば重度化した場合 の意向を伺う等、ご家族とも話し合いをしている。どのような場合 はホームでの対応が困難か等も合わせて話をしている。 (外部評価) 事業所独自で、重度化した場合における対応に関する指針を作成し ている。看取りに関する項目もあり、終末期における介護について も記載され、利用者や家族に説明を行い、重度化や終末期について の希望を確認している。看取り研修の実績もあるが、開設して日が 浅いため、まだ体制づくりができていないのが現状である。	重度化や終末期の支援は、医師や看護師、職員、家族 等の協力が不可欠である。24時間医療体制や職員教 育も含めた体制づくりについての具体的な取組みに期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域（消防団）の方との話しあいを行い、火災や水害等の災害時の避難についての協力体制が築けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 災害時マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練を行っているほか、事業所独自に毎月計画を立て防災訓練を行っている。備蓄品専用の倉庫があり必要物品や水、食料を準備している。地域の避難場所の確認もできているが、これから地域との協力体制を築くため地区消防団と話し合いを行う予定となっている。	災害はいつ起こるか分からないため、運営推進会議で協議するなどし、なるべく早期に地域住民との協力体制を構築していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会が中心となってしまっているが、認知症高齢者に対しての言葉掛けや態度などを自分自身の振り返りの時間を設けるようにしている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接している。自分がされて恥ずかしいと思うことは行わないことを徹底し、声かけにも気を付けて和やかな雰囲気大切にしている。トイレ誘導はさりげなく行うようにし、居室の中で排泄介助を行う場合は必ず戸を閉めるようプライバシーに配慮している。入浴等同性の介助者を望む場合にはなるべく希望に沿っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切にし職員が合わせるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者と共に畑で作った作物と一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が、カロリー計算をし栄養バランスに配慮の上、献立を立てている。すべて事業所内で調理するのではなく、法人内事業所で調理したものをチルド製品にするなどの工夫をしている。野菜の皮むきや食器洗いなど利用者にしてできることを手伝ってもらっており、誕生日には手づくりのケーキを作りみんなで楽しくお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。特に夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。今年から言語聴覚士の訪問もあり、口腔ケアや嚥下状態、姿勢について等相談し、職員全体で統一したケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排泄を促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によってパットの大きさを変えたりしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状態に合わせて支援しており、利用者のほとんどが誘導によりトイレで排泄することができている。不安が強く常時ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、こだわりを理解して随時対応している。排泄チェックはまめに行い状態を把握したり、医師の指示で緩下剤を服用するなど、快適に排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操、散歩、食事など気をつけ、出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。特に朝食後の声掛け誘導を心がけている。緩下剤も看護師に相談し、その使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。	
			(外部評価) 午後の入浴が多く週3回は入浴できるよう支援しているが、毎日入浴を希望する場合も対応している。入浴が苦手な利用者に対しては、職員を代えたり声をかけるタイミングをずらすなど、工夫し対応している。また同性介助等の利用者の希望などにも沿えるようにしているほか、どちらのユニットでも入浴することができるため、利用者の状態に応じ入浴場所を変更するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。一人ひとりの状態の合わせ見守りの下ホール畳スペースでの休息も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の後片付けや畑仕事、洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きな入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩やドライブ等に出かけるようにしている。年に数回は家族と一緒に弁当を食べたレクリエーションに参加して頂いたりしている。	
			(外部評価) 近所に公園があり、利用者は子どもたちが遊んでいる光景を見るのを楽しみにしており、天気の良い日は、近所に散歩に出かけることが多い。また近くの介護施設の移動販売や夏祭りに参加したり、花見、観光施設や公園等にドライブにも出かけるなど、家族と一緒に外出を楽しむ利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者がこづかいを持つことなく買い物をしても職員が代行して支払っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節ごとの飾りを一緒に作成し季節感を感じて頂いたり、毎食行事時のおやつや食事を工夫し五感を刺激できるように工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関は開放され、ユニット間は自由に出入りができるようになっている。壁には季節の物や、行事の写真が飾られている。玄関や食卓には季節の花が飾られており、家庭的な雰囲気が感じられる。居間は明るく畳の場所も確保されている。また畑もあり野菜づくりができるなど、収穫は利用者の楽しみとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。ソファで新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族に協力いただき少しづつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。居室の壁にはお写真を貼るなど工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の収納場所が広いと、利用者は思い出の品などをたくさん持ち込むことができ重宝しており、家で使用していたテレビや家具等を持ち込むなど、個性的な部屋となっている。壁にはカレンダーや写真、利用者の作品等飾られている。ベッドで寝るのを好まない利用者は、畳の部屋で直接布団を敷くことができるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。</p>	